

【教えてブリヂストンさん
ータイヤが知ってる今回のレース】

Rd.3 富士スピードウェイ編



©RACING NEWS formula

牧野：寺西さんお疲れ様です。今回、まずはレース終盤に、レインタイヤに変えたドライバーを教えてください。

寺西さん：上位から・・・37号車（中嶋一貴）、49周目に入って、中古のウェットで7周。7号車（平川亮）は50周目入って交換、これもユーズドだね。それから39号車（国本雄資）も50周目でユーズドに。38号車の石浦選手は45周目にウェットタイヤに変えて10周走ったね、これもユーズドタイヤ。

牧野：他にはまだいますか？

寺西さん：他は・・・1号車（山本尚貴）、2号車（中山友貴）、あとは、41号車の武藤英紀。それ以外はドライのままだったね。

牧野：40号車の野尻はドライのままステイですか？

寺西さん：ドライのまま。

牧野：ダンデライアンは作戦を分けたってことですね。この3台のウェットタイヤもユーズドですか？

寺西さん：1号車はユーズド、2号車はニュータイヤ、41号車はユーズド。

牧野：2号車は使えるユーズドタイヤがなかったってことなののでしょうか？

寺西：そういうことなんだろうね。

牧野：セイフティーカー（SC）が入ったころの雨の量だと、新品と中古、どんなタイプのタイヤ選択がよかったのでしょうか？

寺西さん：基本的にはウェットのニュータイヤというのは比較的不安があるのね。ドライタイヤでもそうだけど、全くのニュータイヤというのは、窯から出すときに出しやすいように、タイヤとは全く違う成分の剥離剤を入れるのね。ニュータイヤの皮むきってというのはそれを取るためするのだけれど、ウェットタイヤはドライタイヤと違って、タイヤと地面との間に水が入るわけだから、直接地面に接地するというのは難しいよね。そうすると新品でいきなり走っても、その剥離剤がなかなか落とせないから、タイヤも発熱しにくくなっちゃうのね。だから、今回のような状況で、ニュータイヤで走り出すというのはなかなか厳しいものはありますね。2号車は皮むきしてあるタイヤがたまたまなかったのかな。今回走ったのはセット番号がウェット2だから、ウェッ

ト1というのがあったはずなんだけど、それは結構摩耗してたんじゃないのかな？

結果的に言えば、最後にこれだけ雨が降っちゃえば、山のあるタイヤの方が当然、水はけはいいし有利だと思うのね。今、うちのウェットタイヤというのはステルスパターンと言って、山の形が戦闘機と似た形をしているものなのだけけれど、タイヤが摩耗して削られればどんどん接地面積が大きくなるのね。だから摩耗したタイヤの方が接地面積が大きくなって、昔でいう浅溝タイヤみたいな状態になるのね。これは路面がーフウェットの時に有効なタイヤになる。

チームはいろんな状況の時に合わせて、新品のタイヤ、ちょっと皮むきしたタイヤと、ある程度走らせたタイヤを持って、雨の条件に合わせて使うようにしているのね。今回も、そういう準備はできていているところは、雨が降り出した時の状況を見て中古で行ったんだらうけど、今回、最終的にあれだけ雨が降るのであれば、新品を使っても良かったかもね。

牧野：最後の最後は相当な雨でしたもんね。

寺西さん：まあ、そこまでは誰も予想がつかなかったということだね。

牧野：最初に石浦選手がウェットタイヤに変えたタイミングは、早すぎたということでしょうか？

寺西さん：結果としては早すぎたね。その証拠に石浦のタイヤを見に行ったのだけど、右側のリヤタイヤがめくれていたのね。途中、少し雨が止んだ時にそこで痛めちゃったんだらうね。

牧野：今回に関しては、雨の流れを見ての戦略勝負というよりも、運でしたよね……。一貴選手がピットに入った時もストレート側はそんなに降ってなくて、微妙なコンディションでしたよね。

寺西さん：微妙だったよね。でも、平川や国本と比べて1周早くピットに入っていた分、タイヤは暖まっていたというのもあるかもね。そういう意味では戦略として勝ったというのもあるけれど。それでも、運かな。今日は、最後に一貴が運を全部持って行ったかな。

牧野：勝利の女神がほほえんだ、というよりいたずらをしたようなレースでした。

寺西：ちょっと意地悪だったね。

牧野：お話を決勝レース前半のドライコンディション編にちょっと戻って、路気温は第2戦の時よりも低かったんですね。

寺西：低いね。レース始めの14時が気温22℃の路面26℃。中盤が24℃—29℃、雨が降った最後は21℃—25℃だったね。

牧野：6月の第2戦よりも低くなるとは想定外でした。だいたいのチームがレース半分過ぎにピットインという戦略でしたが、30周近く走っても、タイムの落ちもあまりありませんでしたね。

寺西さん：気温が安定しているというか、結構低めだったから、割と落ちずに走れたね。

牧野：前回よりもさらにタイムは安定していたように見えました。今回は路面が50℃くらいになって、タイヤがどう変化するかというところをポイントに置いていたのですが、それは次戦のもてぎに持ち越しですね。

寺西さん：もてぎは暑いから多分そうなるでしょう。一部のドライバーからグリップが足りなくて言われ続けたりしているのだけれど、グリップが低いということはタイムが落ちるのも緩やかになる。そうすると、たとえ路面温度が50℃になったとしても、そんなにタイヤの落ち幅は大きくないんだよね。そういう意味では、暑くなってもわりと安定して走れると思うんだけどね。

牧野：次戦のもてぎ大会、どんなレース展開になって、タイヤにどんな変化があるか、また楽しみに見てみます。今回もありがとうございました。